

令和2年度第2回経営協議会 議事要旨

日時	令和2年9月28日（月）14時30分～15時35分
場所	事務棟第一会議室
出席者	穴沢学長，江頭理事，鈴木理事，近藤副学長，片桐委員 上林委員，佐藤委員，杉江委員，福田委員，舟本委員
欠席者	栗田委員
陪席者	福井理事，伊藤監事，近藤監事，小嶋事務局長

議事に先立ち，穴沢学長より新任である監事の紹介が行われた後，前回開催の令和2年度臨時経営協議会の議事要旨の確認が行われた。

議 題

1. 国立大学法人小樽商科大学に勤務する職員の兼業に関する規程の一部改正（案）について

穴沢学長から，審議資料1に基づき，国立大学法人小樽商科大学に勤務する職員の兼業に関する規程の一部改正（案）について諮られ，審議の結果，原案どおり承認された。承認後，穴沢学長から，本日開催の役員会に附議する旨発言があった。

報 告 事 項

1. 三大学経営統合の現況について

穴沢学長から，報告資料1に基づき，三大学経営統合の現況について報告があった。なお，委員からは，主として以下のような意見等があった。

- 現在の小樽商科大学は，帯広畜産大学，北見工業大学と比較しても道外出身学生の割合が低く，単なるローカル大学の1校となってしまう。関東や関西においても，卒業生くらいにしか知名度はないだろう。今後，存在感を示していくには，この3大学経営統合の機会しかないだろう。資料に記載されているビジョンは，どこの大学でも掲げているような内容であり，このような内容で3大学が1つの方向を向いて進んで行けるのか懸念を持っている。バイオマスエネルギー実証研究拠点のプロジェクトだけではなく，例えばスマート農業や洋上発電のような次世代エネルギー等，これらにどう取り組むかということテーマにする必要がある。こういったことはたくさん出てくるはずである。
- 3大学の年間業務量を1割削減とあるが，民間企業の統合時においてこれほど低い業

務量削減目標は見たことがない。かなり余裕を持たせた数字なのか。

→ 経営コンサルタント会社が算出した数値である。

→ 確かに1割は少ないと考えている。ただし大学の業務は学生対応の業務がかなりの割合を占めている。学生対応の業務は統合によっても距離の問題もありなかなか減らせない。きちんとした教育を提供しようとするので減らせないという事情もある。

○ せっかく経営統合するのなら、合理化による業務量の削減効果を出さなければならない。もう少し見直すべきである。

○ 経営コンサルタントにやってもらったようなことは、小樽商科大学の得意分野なのではないか。得意な分野でしっかりとリーダーシップをとっていくのが小樽商科大学の使命ではないか。それが3大学経営統合の一番のメリットになるのではないか。

2. 「令和2年度補正予算対象予定事業（大学等における遠隔授業の環境構築の加速による学修機会の確保）」について

穴沢学長から、報告資料2に基づき、「令和2年度補正予算対象予定事業（大学等における遠隔授業の環境構築の加速による学修機会の確保）」について報告があった。

3. 最近のトピックスについて

穴沢学長から、報告資料3に基づき、最近のトピックスについて報告があった。

その他

穴沢学長から、次回の経営協議会については、令和2年11月16日（月）14時30分から開催する予定である旨、発言があった。なお、緊急の案件が生じた場合には、急遽、会議を招集させていただくことも想定されるので、その場合には、会議の開催日程を調整させていただきたい旨、併せて発言があった。

以 上